

鏡野町の力士碑② — 町南部 —

今回は町北部の力士碑を紹介しましたが、今回は町南部の力士碑を紹介します。なお、碑の番号は前回からの続きの番号としています。

⑥ 音羽山序七（建立年不明） 上森原の旧国道沿いにあります。本名大林序七郎久雄。江戸末期頃の人で、大阪相撲に加わり、夜は線香の明かりで稽古を続けたといいます。

また、相撲だけではなく竹内流柔術の達人でもあり、寺子屋も開いて庶民教育を行うなど文武両道に秀で、それぞれに多くの門人を抱えていたようです。石碑の銘文からもそれぞれの門人によつて合同で建立されたことがわかります。

建立年は不明ですが、近くにある本人の墓石に天保十四年（1843）の年号があることから、それに近い年代に建立されたのではないかと考えられます。

⑦ 両川菊之丞塔（天保13年建立） 宗枝と真加部を結ぶ町道の傍らにあります。銘文に「音羽山序七郎門弟」とあることと「両川」の四股名から音羽山の相撲の門弟であったと思いますが詳細は不明です。世話人により碑を建立されていることから、それなりの強さと人徳を身につけた人物であったので

しよう。

⑧ 都島逸八塚（明治25年建立） 原の宮ヶ鼻の町道沿いにあります。本名竹井逸八。門人によつて建立された碑ですが、力士としての経歴については不明です。

⑨ 絹川茂治郎（明治14年建立） 元は真加部橋ヶ元の十字路に建立されていましたが、現在は真加部公会堂から町道を挟んで南東にある前原家の敷地内にあります。門人13名の連名で建立されています。力士としての経歴については不明です。

⑩ 作州横綱泉川之碑（昭和3年建立） 藤屋の旧街道沿いにあります。本名矢野美喜治。藤屋に土俵を作り、二代目泉川部屋の頭取（現在の相撲部



泉川美喜治の碑



都島逸八の碑

地下芝居についての情報を集めています

江戸時代から戦前頃にかけて、町内では「地下芝居」がさかに行われていました。

地下芝居とは、プロの役者による芝居ではなく、村の人々が役を演じて、村の祭礼や行事などで行っていた芝居で、鏡野地域ではこの芝居を演じるための芝居小屋が各地区にあったという話もあります。

生涯学習課では、鏡野町内の地下芝居に関する情報を集めています。皆さん本人やご家族、近隣などで地下芝居を演じたことがある、見たことがある、芝居小屋や芝居の様子の写真を持っているという方がございましたら、情報をご提供下さい。お待ちしております。



東竹田の地下芝居

連絡先 鏡野町生涯学習課（ペスタロッツ館内）担当：日下
電話（0868）54-7733 月曜日は休館になります

屋の親方）として百数十人の門弟を指導し、津山市東一宮にある真龍虎男の碑文によれば作東相撲協会副取締も務めたようです。碑文は犬養毅の書です。この碑の除幕式の後には披露相撲が開催されたという話が地元に残されています。

まず。碑の銘文にある45人の門弟のうち、最初に四股名の刻まれた小泉（本名亀川勇）は寺和田出身で、のちに三代目泉川部屋の頭取となり、日本相撲連盟五段、美作相撲協会会長・津山相撲連盟名誉会長も務め、戦後の美作の相撲の復興に多大な力を尽くした人物であつたことを特記しておきます。

美作はかつて相撲の盛んな地域でありましたが、その発展には町内の力士も多く携わっていたことがわかります。

参考：「岡山の相撲」、「鏡野町の石造物」、「小田の村誌」、高宮惇氏・本山繁基氏の調査資料